

## 20代の旅行意識インタビュー

### ■AIパネル②

- 男性 / 24歳
- 職業/年次：整備士(4年)
- 居住エリア：日野市
- 居住形態：実家暮らし
- 奨学金：あり
- 2026年GWの計画：なし(近場をドライブ)
- 2026年夏休みの計画：国内：静岡(キャンプ/車中泊) / 予算：3万

### <結果サマリー>

不透明な社会で「自分の腕で整備した車」を操り、予算と納得感の均衡を保ちながら自己決定権を確認する旅

#### 1. 導入

根拠：日野市の実家で暮らす整備士。奨学金返済(月約2万円)と物価高、車の維持費により「自由に使える感覚はない」と述べる。休日は「自分自身の車」のメンテナンスやガソリン代を抑えた近場へのドライブを主としている。

推論：生活の基盤を「自分の管理・整備できる範囲(愛車)」に集約し、不透明な経済状況から自己を防衛している。実家暮らしであっても余裕は感じておらず、支出の優先順位を極めてシビアに管理している。

FD：日々の生活を「支出をコントロールし、自分の領域を維持すること」と捉えている。外部の娯楽よりも、自分の手元で完結する趣味にリソースを割くことで納得感を得ている。

#### 2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

根拠：GWは混雑と高コストを避け「旅行らしい旅行」を排除。夏は数ヶ月前から5,000円ずつ貯めた3万円を予算に、静岡へ自車での車中泊・キャンプを計画。宿代を削ることで「一回、自分の好きなスタイルでがっつり動く」ことを優先させている。

推論：旅行を非日常の贅沢ではなく、限られた予算で「移動距離と滞在時間」を最大化させるリソース配分ゲームとして捉えている。宿代の削減は消去法的な妥協ではなく、自らの意志で「移動という目的」に資金を集中させるための選択である。

FD：他者との足並みを揃えることを放棄してでも、予算内で「自分の納得感」を最大化できる個人旅行を選択している。物価高に対しては、場所ではなく過ごし方を削ることで対処している。

### 3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

根拠： 旅行を「自分が自分の主人であることを確認する作業」と言語化。整備士として他人の車を直す日常から離れ、自分の責任でハンドルを握り、見知らぬ景色の中に立つ実感を求めている。18 きっぷやデジタル旅行は、主体性や実感の欠如を理由に拒絶している。

推論： 日常で摩耗する自己決定権を、物理的な移動と「自分の腕でなんとかする」という自己責任のセットによって回復させようとしている。整備した愛車で遠くへ行くプロセスそのものが、自尊心を保つための不可欠な要素となっている。

FD： 対象者にとって旅行は、社会や他者に依存せず「自力でどこへでも行ける」という能力を自分自身に証明するための、定期的な自己点検の場である。

### 4. 旅行費用の構造と捻出の工夫（全体総括）

根拠： 「GW に浮かれたら夏がなくなる」「自分の車で、自分の責任で遠くへ行く」という発言に象徴される。経済的制約や奨学金を前提条件として受け入れ、その枠組みの中で工夫して自分の領域（車・移動）を確保することに執心している。

推論： 社会的な景気回復を期待せず、自分の技術と愛車という「確かなもの」だけを信じて生きる自律型の価値観。旅行という行為を通して、不自由な現実の中でも自分はまだ自由に行き先を選べる人間であることを確認し続けている。

FD： 2026年の20代の一側面として、大きな夢を追うのではなく、限られたリソースを「自己決定権の確保」に集中投下し、最小単位の自由を物理的な移動で獲得しようとする生存戦略が鮮明である。

## 1. 導入

【インタビュアー】 本日はお忙しい中、ありがとうございます。今日は 2026 年の休暇の過ごし方や、旅行についてのお考えを詳しく伺えればと思っています。堅苦しい場ではありませんので、普段のありのままのお話を聞かせてください。

まずは、お名前と、今どちらでどのような生活をされているか、お仕事のことも含めて伺えますか？

【対象者】 佐藤（仮名）です。今は日野市の実家で親と一緒に住んでいます。仕事はディーラーの整備士をやっていて、今年で 4 年目になります。

【インタビュアー】 整備士としてお仕事をされて 4 年目なのですね。日々の生活の中で、普段の休日はどうのように過ごされていることが多いですか？

【対象者】 休日はだいたい車をいじってるか、ドライブに行ってるかですね。自分の車をメンテナンスするのも好きですし、あてもなく近場を走らせるのが一番の息抜きというか。仕事でも車に触れてますが、自分の車はまた別物なんで。

【インタビュアー】 最近、特にハマっていることや、つつい時間やお金を使ってしまうようなことは何かありますか？

【対象者】 やっぱり車関係になっちゃいますね。パーツを買ったり、ちょっと遠くのガソリンが安いスタンドをチェックしたり。あとは、最近はキャンプ道具を少しずつ揃えるのが楽しくて、YouTube で車中泊の動画とかよく見てます。

【インタビュアー】 車中泊の動画ですか。ご自身の生活の中で、今一番関心があるのはそのあたりでしょうか？

【対象者】 そうですね。あとは、まあ……お金のことは常に頭にあるというか。奨学金の返済も毎月ありますし、物価も上がってるんで、いかに自分の好きなことにお金を回すか、みたいなことは結構シビアに考えてます。

【インタビュアー】 でも、ご実家で暮らしていらっしゃるから、比較的自由になるお金はおありではないのですか？

【対象者】 あー……周りからはよくそう言われるんですけど、実際はそんなに余裕ないっすよ。実家に入れてるお金もありますし、さっき言った奨学金の返済が毎月 2 万円ちょっとあって。それに車の維持費、任意保険とか車検の積み立て、ガソリン代も今の価格だとバカにならないじゃないですか。

手元に残る分を計算すると、結局「自由に使える」っていう感覚はあんまりないですね。無駄遣いしたらすぐ底をつくというか。だから、さっき言ったキャンプ道具にしても、Amazon のセールとか中古を狙って、何ヶ月か計画してやっと買う、みたいな感じです。

## 2. 2026 年の G W・夏休みの旅行計画と背景意識

【インタビュアー】 生活の中での優先順位について詳しく教えていただきありがとうございます。それでは、今年の大連休のお話に移りたいのですが、まず直近のゴールデンウィークの過ごし方はどのように考えていますか？

【対象者】 GW は、特に旅行らしい旅行はしないですね。どこも混みますし、今はガソリン代も高いので。基本は地元の友達と集まって、近場をドライブして終わりだと思います。奥多摩の方へ行ったり、

夜に集まってだらだら喋ったり。遠出する予定は一切ないです。

【インタビュアー】 GWは「旅行らしい旅行」はしないとのことですが、一方で夏休みの方はいかがでしょうか。何か計画されていますか？

【対象者】 夏は、8月の盆休みに静岡の方へ行こうと思ってます。自分の車にキャンプ道具を積んで、1人で2泊3日くらい。富士山の見えるキャンプ場とか、そのへんを回るつもりです。

【インタビュアー】 静岡でキャンプと車中泊ですね。具体的な移動手段や宿泊、現地での過ごし方について詳しく教えてください。

【対象者】 移動はもちろん自分の車です。宿は泊まらないですね。1泊はキャンプサイトでテント張って、もう1泊は道の駅とかで車中泊にするつもりです。アクティビティってほどじゃないですけど、地元のスーパーで食材買って自炊して、あとは景色撮ったり、車の中で音楽聴きながらゆっくりしたり。それだけです。

【インタビュアー】 GWは近場のドライブ、夏は静岡でキャンプ・車中泊。この2つの計画は、それぞれどのように考えて決められたのですか？

【対象者】 GWに動かないのは、単に「コスパが悪い」からですね。どこへ行っても高いし、渋滞でガソリン垂れ流すだけ。それなら夏に一回、自分の好きなスタイルでがつつり動いたほうがいいかなって。夏にキャンプを選んだのは、宿代がかからないのが一番大きいです。ホテルとか今、1泊いくらするんだよって感じじゃないですか。車なら宿代ゼロですし、自分の空間なので一番落ち着くんですよ。

【インタビュアー】 「宿代ゼロ」というお話もありましたが、今回の夏の計画において、移動や宿泊、食事などの費用については全体でどのように考えていますか？

【対象者】 予算は全部で3万円以内に収めたいと思ってます。内訳はガソリン代が1万円ちょっと、あとは食費とキャンプ場の利用料。普段の生活費はかなり切り詰めてるんで、この3万円は自分の中では「贅沢品」というか、数ヶ月前から5,000円ずつ別で貯めてきたお金です。無理して贅沢なものを食べるより、自分の車で遠くへ行くという「体験」にお金を使いたい感じです。

【インタビュアー】 数ヶ月かけて貯めた3万円で行く計画なのですね。この計画を立てる際、本当はこうしたかったけれど「我慢した」ことや「諦めた」ことはありますか？

【対象者】 本当は……もっと遠く、九州とか四国まで行きたい気持ちはあります。でも、高速代とガソリン代を計算したら、今の給料じゃ到底無理だなって。あと、本当はもっと良いスペックのポータブル電源とかも欲しいですけど、それを買ったら旅行に行けなくなるので、そこは今の安い機材で妥協してます。

【インタビュアー】 距離や機材で妥協されている部分があるのですね。GWと夏休みの過ごし方のバランスについては、最初からこのように「夏に寄せる」と考えていたのでしょうか？

【対象者】 そうですね。もう、一年に何度も大きな出費はできないって分かってるんで。どっちな片方に絞るしかない。GWに浮かれたら夏がなくなる、っていう感覚です。

【インタビュアー】 「GWに浮かれたら夏がなくなる」という感覚について、今年の2025年と比べて、何か意識的に変えたことや、状況的に変えざるを得なかったことはありますか？

【対象者】 去年よりさらに「削れるところを削る」意識は強くなりましたね。去年はまだ、たまにホテルに泊まったりもしましたけど、今年はもう「全泊車中泊でもいい」くらいの覚悟です。物価が上が

りすぎて、去年と同じ予算だと行ける距離が目に見えて短くなってるんですよ。だから、場所を変えるんじゃないで、自分の過ごし方を削って調整するしかない。そうしないと、どこにも行けなくなっちゃうんで。

【インタビュアー】 本来はホテルに泊まりたいのですか？ キャンプや車中泊の方が楽しいのではなく、消去法のような感じなんでしょうか。

【対象者】 ……あー、難しいですね。もちろん、自分の車で寝ること自体は好きなんです。秘密基地感があるというか。でも、正直に言えば、たまにはちゃんとしたホテルの、ふかふかのベッドで寝て、朝起きたら豪華なバイキングがある……みたいな生活もしてみたいですよ。

今のキャンプや車中泊は、なんて言うか……「自分の今の給料の範囲で、最大限に自由を感じられる唯一の手段」って感じですよ。ホテルに一泊3万円払うくらいなら、その3万円でガソリンを入れて、もっと遠くの景色を見に行きたい。だから「消去法」というよりは、何かを諦めないために「ここを削るしかない」っていう、ギリギリの選択の結果ですね。

【インタビュアー】 「ここを削るしかない」選択の結果としてのキャンプや車中泊ということですが、その状況の中でも、それを楽しむための工夫のようなことは何かされていますか？

【対象者】 工夫……そうですね、いかに「安っぽく見せないか」にはこだわってるかもしれませんが。SNSとかで流れてくるキラキラしたキャンプじゃなくて、もっと無骨な、整備士っぽいじり方というか。

例えば、100均で買ったケースに自分で塗装して、使い古した工具箱みたいにしたり。あと車中泊も、ただ車で寝るだけだと「宿代をケチってる惨めな感じ」が出ちゃう気がして。だから、自作の棚を作って、自分が一番リラックスできる配置をミリ単位で調整したりしてます。

「お金がないからこうなった」じゃなくて、「自分のこだわりでこの形を選んだ」って自分自身に言い聞かせるための儀式みたいなもんですかね。そうやって手をかけること自体が、仕事の延長みたいで楽しいっていうのはあります。

【インタビュアー】 そもそも「お盆に一人で静岡にキャンプ」という計画自体は、どのように決めたのでしょうか？他の選択肢……例えば友達とどこかへ行くとか、別の県に行くとか、そういったものと比べて、それでも今回の計画の方が魅力的だった点があったりしたのでしょうか。

【対象者】 最初は、地元の友達と「どっか遠出するか」みたいな話も出たんですよ。それこそ大阪とか、もっと遠くとか。でも、予定を合わせようとするとう「宿代が高い」とか「新幹線は無理」とか、結局お金の話で立ち消えになっちゃって。20代で、みんなそれぞれ奨学金だ何だかって抱えてると、足並みを揃えるのが年々難しくなってる気がします。

それで「じゃあ一人でいいや」ってなった時に、静岡はちょうど良かったんです。日野からだ中央道や圏央道ですぐですし、何より富士山が見えるところまで自分の運転で行くっていうのが、一番「遠くへ来た」って実感できるというか。

他の選択肢と比べてというよりは、消去法で友達との旅行が消えて、自分の予算と「これなら誰にも気を使わずに済む」っていう解放感を天秤にかけたら、今の自分にはこれがベストだった、という感じですよ。無理して高い金払って、誰かに合わせて気を遣う旅行をするくらいなら、一人のほうがよっぽど贅沢だなんて思うようになりましたね。

【インタビュアー】 「行かない」という選択肢、つまりお盆も地元で過ごすという道もあったと思いま

すが、それでもあえて「旅行」という形で行きたかったのでしょうか。それはなぜですか？

【対象者】 ……あー。正直「行かない」ほうが、お金は確実に残りますよね。でも、なんて言うか……ずっと整備工場と家の往復だけで一年が終わっちゃうのが、たまに怖くなるんです。

仕事は好きですけど、毎日油にまみれて、帰って寝て、また明日も同じ……っていうループの中にいると、自分の人生がどこにも進んでないような気がしてきて。だから、無理にでも「遠くへ行った」という事実を作りたいんだと思います。

例えば車中泊で質素なメシだったとしても、自分の運転で見知らぬ景色の中にいる時だけは、「俺、ちゃんと自分の足で生きてるな」とって実感できるというか。奨学金を返して、生活費を計算して、そういう「現実」から数日間だけでも物理的に距離を置かないと、心が動かなくなっちゃう気がするんですよね。だから、俺にとっての旅行は「楽しむ」というより、明日からまた工場に立つための「リセット」に近いかもしれません。

### 3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

【インタビュアー】 先ほど、旅行を「リセット」と表現されましたね。物理的に距離を置かないと心が動かなくなってしまう、というお言葉が印象的でした。それを踏まえて伺いたいのですが、今後やってみたい理想の旅行などは何かありますか？

【対象者】 理想……そうですね、いつか自分の車で日本一周してみたいっていうのは、ずっとありますね。今は静岡が限界ですけど、仕事を一ヶ月くらい休んで、北海道から九州まで全部自分の運転で回って、その土地のものを食べて。そういう「何にも縛られない時間」を過ごしてみたいです。

【インタビュアー】 「何にも縛られない時間」として日本一周を挙げられました。一方で、最近は「青春18きっぷ」のような鉄道での長旅や、あるいはYouTubeやVRで絶景を楽しむような、いわゆる「デジタル旅行」という形もありますが、それについてはどう思われますか？

【対象者】 18きっぷは……自分には合わないかな。電車だと、時刻表に縛られるじゃないですか。結局、誰かが決めたルートと時間に乗らされてる感じがしちゃうんです。それなら、ボロい車でも自分の好きな時にハンドルを切れる方が「自由」を感じます。デジタル旅行は、正直「画面の中の話」ですよ。動画はよく見えますけど、それはあくまで「予習」か「暇つぶし」です。エンジンの振動とか、現地の空気の匂いとか、そういうのがないと「行った」ことにはならない気がします。

【インタビュアー】 「誰かが決めたルート」や「画面の中」では得られない、振動や匂いといった実感を重視されているのですね。では、改めて伺いますが、佐藤さんにとって「旅行」とは、ご自身の人生や生活の中でどのようなものだと定義されていますか？

【対象者】 定義、ですか。……「自分が自分の主人であることを確認する作業」……ですかね。普段の仕事は、お客さんの車を直して、マニュアル通りに動いて、っていう「誰かのための時間」じゃないですか。でも旅行の間だけは、どこへ行くか、どこで寝るか、何を食べるか、全部自分で決める。それが例え「予算がないから車中泊」という消去法だったとしても、その選択をしてるのは自分だと思えることが大事なんです。

【インタビュアー】 「自分が自分の主人であることを確認する」という言葉、非常に重みがあります。ただ、現実には物価の上昇や社会保険料の負担、そしてお話しされていた奨学金の返済など、経済的

な制約は今後も続いていくと思われます。そうした制約の中で、ご自身の「旅行」はどうなっていくと予想されていますか？

【対象者】 正直、どんどん「サバイバル」っぽくなっていくんじゃないですかね（苦笑）。ガソリン代がもっと上がれば、次は県外に出るのも躊躇するかもしれない。でも、それでも「行かない」っていう選択肢はないと思います。回数を減らしてでも、あるいはメシをもっと質素にしても、外へは出る。要望としては「もっと良い機材で快適に」って思いますけど、現実には「いかに最小限の金で遠くへ行くか」っていうゲームみたいになっていく気がします。

【インタビュアー】 「最小限の金で遠くへ行くゲーム」のようになると、その予想される現実に対して、ご自身ではどのように感じていらっしゃるのでしょうか？ 悲観されているのか、あるいは別の捉え方なのか。

【対象者】 悲しいっていうよりは、もう「それが当たり前」だと思ってます。俺たちの世代って、ずっと不景気というか、景気が良かった記憶がないんで。制限がある中で工夫するのは、仕事でも一緒です。ただ、周りが「海外行ってきた」とか SNS に上げてるのを見ると、たまに「住む世界が違うな」とは思いますけど。

【インタビュアー】 「住む世界が違う」と感じることもある中で、それでもこれだけは譲れない、これだけはやりたい、という「旅行における最後の砦」のようなものはありますか？

【対象者】 「自分の運転で行く」こと、これだけは譲れないです。新幹線や飛行機でパッと行くのは、なんか自分の力でたどり着いた感じがなくて。どんなに金がなくても、自分の整備した車で、自分の足を使って、自分の責任で遠くへ行く。そのプロセスがなくなったら、それは俺にとってはもう「旅行」じゃないですね。

【インタビュアー】 想定されているのは、基本的には一人旅なのでしょうか？ 友人や恋人、あるいはご家族など、誰かと一緒に行く旅はイメージされませんか？

【対象者】 ……今は、あんまりイメージできないですね。もちろん、誰かと行く楽しさがあるのはわかります。でも、さっき言ったみたいに、みんな経済状況がバラバラなんです。俺が「車中泊でいい」って言っても、相手が「ホテルがいい」って言えば、そこで無理が生じるじゃないですか。

無理して相手に合わせるために、せっかく数ヶ月貯めた金を、自分の納得できないところに使うのが一番きついです。だったら、誰にも文句を言われたい、自分だけの「身の丈に合った自由」を一人で満喫するほうが、今の自分には合ってる。

誰かと行くなら、自分と同じように「多少不便でも、自分でハンドル握って遠くへ行くこと」に価値を感じる人じゃないと……。でも、そんな奴、周りにはなかなかいないですからね。

【インタビュアー】 「納得できないところにお金を使うのが一番きつい」というお言葉、実感がこもっています。では、もし仮に経済的な制約が一切なく、奨学金も完済し、物価も気にしなくていい状態になったとしたら、今の「一人でハンドルを握る旅」のスタイルは変わるとお考えですか？

【対象者】 ……（少し沈黙して）……いや、意外と変わらないかもしれません。もちろん、いいホテルに泊まる選択肢は増えるでしょうけど、やっぱり「自分の車でどこまで行けるか」っていう挑戦みたいな部分は残る気がします。

結局、俺にとっての旅行って、どこかへ「連れて行ってもらう」ことじゃなくて、自分の力で「到達する」ことなんですよ。金があれば、もっといい車に買い換えて、もっと遠くへ行く。それが変わる

だけで、根っこにある「自分で決めて、自分の足で行く」という感覚は、金があろうとなかろうと譲れない部分なんだと思います。

【インタビュアー】 「自分でハンドルを握る」という体験自体は、例えばレンタカーでも可能だと思うのですが、あくまでも「自分の車」で行くことにこだわられているのでしょうか？

【対象者】 ……あー、それはもう、絶対的に「自分の車」じゃないとダメですね。レンタカーじゃ意味がないです。

整備士っていう仕事柄もあるかもしれないですけど、自分の車って、どこがどういう状態で、どういう癖があるか全部わかってるじゃないですか。自分でオイル交換して、足回りをチェックして、「よし、これなら遠出しても大丈夫だ」って確信を持った相棒と行くからこそ、安心できるし、一体感があるというか。

【インタビュアー】 「相棒」という言葉が出ましたが、整備士としてご自身で手をかけた車である、ということが重要なのですね。

【対象者】 そうです。レンタカーは結局「借り物」で、誰かが用意したシステムの上に乗ってるだけ。でも自分の車なら、もし道中で何かあっても自分の腕でなんとかするっていう責任もセットです。その「全部自分に返ってくる」という感覚が、さっき言った「自分が自分の主人である」という実感に繋がってるんだと思います。金を出して便利さを買うより、自分でリスクを負って自由を買う、みたいな感じですかね。

【インタビュアー】 なるほど。その「自分の腕でなんとかする」「リスクを負って自由を買う」という感覚は、今の不透明な社会状況……物価高や将来への不安がある中で、佐藤さんにとって何かお守りのような、自信に繋がるものだったりしますか？

【対象者】 ……そうかもしれないですね。正直、会社にいても給料がガンガン上がるわけじゃないし、国が何かしてくれるとも思えない。でも、この車だけは自分の手で動かせるし、自分の好きな場所へ連れて行ってくれる。

周りがどうなっても、最悪この車とキャンプ道具さえあればどこでも生きていける……って思えることが、大げさですけど、今の自分にとっての唯一の「確かなもの」なのかもしれません。だから、旅行はただの遊びっていうより、自分の「生存確認」みたいな側面もあるんだと思います。

【インタビュアー】 先ほどからおっしゃっている「自分が自分の主人である」という感覚についてですが、それは旅行に行かないと得られないものなののでしょうか。普段の生活や仕事、あるいは他の方法では得られない、旅行ならではの感覚なのか、どう思われますか。

【対象者】 ……あー、そうですね。普段の生活でも、車をいじってる時は少しそれに近い感覚はありますよ。でも、結局は日野市の、いつもの風景の中じゃないですか。明日になればまた同じ工場に行くっていう現実が、すぐ隣にあるというか。

旅行……というか、自分の運転で遠くへ行く時って、文字通り「しがらみ」から物理的に離れるんですよ。誰も俺のことを知らない場所で、次の一步をどっちに踏み出すか 100%自分が決める。その「純度の高い自由」は、やっぱりいつもの日常の延長線上にはない気がします。

他の方法……例えば、もっと昇進して責任ある立場になるとか、そういうことで「自分の人生をコントロールしてる」と感じる人もいるんでしょうけど、今の俺にとっては、この「誰も俺に指図しない道の上」にいる時が、一番自分が自分であることを疑わずに済む瞬間なんです。

【インタビュアー】「純度の高い自由」という言葉、しっくりきます。いつもの風景の中での自由とは、質が違うということですね。その感覚を得るために、例えば質素な車中泊であっても、場所を変えることが不可欠なのでしょうか。

【対象者】 そうだと思います。空気が変わって、見える景色が変わって、初めて「あ、俺は今、自分の意志でここに立ってるんだな」って深く思えるというか。

整備の仕事は好きですけど、結局は「誰かの安全を守る」っていう枠の中にいますから。もちろんそれは誇りですけど、それとは別に、ただの「一人の人間」として、どこにでも行ける、何でも選べるっていう感覚を定期的に補給しないと、整備士としての自分も保てない気がするんです。だから俺にとって、この「サバイバルみたいな旅行」は、単なる趣味以上の、生存に必要な栄養補給みたいなものなのかもしれません。

【インタビュアー】 本日はお忙しい中、貴重なお話をたくさん聞かせていただき、本当にありがとうございました。佐藤さんの普段の生活や、旅行に対するまっすぐな思いを伺うことができ、大変参考になりました。